【ポスター発表】

コミュニティソーシャルワーカー配置事業における効果的援助要素の検討

－実践家参画型ワークショップを活用したプログラムモデルの形成にむけて－

○　お茶の水女子大学大学院　佐藤　雅子（8361）

菱沼　幹男（日本社会事業大学・3909）、室田　信一（首都大学東京・6647）、山口　麻衣（ルーテル学院大学・5165）、大島　巌（日本社会事業大学・0228）

キーワード：コミュニティソーシャルワーク、実践家参画型ワークショップ、プログラム評価

１．研 究 目 的

コミュニティソーシャルワーカー配置事業は社会福祉協議会を中心に全国的に展開されてきているが、共通する事業枠組みがなく、所属機関や配置の状況に応じて多様な機能や役割を持ち、全国各地でさまざまな取り組みが行われている。そこで、これまで蓄積されてきた各現場における効果的実践を可視化するために、プログラム評価の理論と方法（Rossi et al.=2005）をもちいて、コミュニティソーシャルワーカー配置プログラムのモデルの形成に取り組んでいる。[1)] 実践を体系化した効果的プログラムモデルを形成することは、コミュニティソーシャルワーカーの機能および配置による効果を客観的に評価し、事業の改善や普及、さらには新たな施策の策定などに活用できると期待される。

本研究では、コミュニティソーシャルワーカー配置プログラムが効果的に機能するために必要と考えられる要素を「効果的援助要素」として検討し、実践現場のコミュニティソーシャルワーカーが共通して重要と考える機能を明らかにする。

２．研究の視点および方法

プログラム評価の理論と視点にもとづいて「効果的援助要素」を検討するために、2016 年 2 月に実践家参画型ワークショップを実施した。6 都道府県より、それぞれ異なる地域に配属されている指導者レベルのコミュニティソーシャルワーカー8 名(男性 4 名、女性 4 名)が参加した。あらかじめ、2014 年に実施した実践家参画型ワークショップ(佐藤ら 2014)で得られた質的データをもとに「効果的援助要素」を抽出し、6 領域 33 項目に整理したリスト(試案)をもちいて検討した。具体的には、(1)各々の参加者が各効果的援助要素の必要性について「絶対必要」「まあ必要」「あまり必要ない」「必要ない」の 4 件法にて回答し、(2)挙手にて全員の回答を確認したのち、(3) ファシリテーターを進行役とし、各項目ごとに意見交換を行った。

３．倫理的配慮

本報告は、日本社会福祉学会の「研究倫理指針」を遵守し、調査対象者の匿名性を確保するよう配慮している。

４．研 究 結 果

33 項目における各効果的援助要素の必要性について「絶対必要」「まあ必要」「あまり必要ない」「必要ない」の 4 件法で回答を求め、それぞれ 4 点、3 点、2 点、1 点として点数化した。その結果 32 点が 5 項目、28 点～31 点が 15 項目、24 点～27 点が 12 項目、26 点以下が 1 項目であった。参加者全員が「絶対必要」と回答した 5 項目「地域活動の組織化:個別の課題を地域課題として普遍化させる」「新たな資源の開発:制度のはざまの課題のアセスメントを行う」「関係機関への働きかけ:必要時チームを組む」「個人への働きかけ:個別アセスメントを行う」「個人への働きかけ:モニタリング」は、実践家の間で共通して重視されている機能であることが確認された。また意見交換の結果、新たな項目の追加、必要度の低い項目の削除、領域間の移動項目についてあげられた。このうち 17 の項目においては必要度の高い項目として意見の一致をみたものの、実践家によって援助要素を指し示す言葉の用い方が異なり、それぞれの意味内容を確認した上で修正を行った。さらにプログラムが対象とする「地域」について、場面に応じて対象とする範囲が異なるとし、実践領域ごとにその定義を追記した。

５．考 察

本研究では、対話と合意形成を重視した実践家参画型ワークショップを活用して「効果的援助要素」を検討した。必要度の高い援助要素を抽出し、地域や所属組織の異なる実践家が共通して重視する機能を明らかにした。今後さらに実践家との意見交換を重ね、実践現場で行われる効果的な取り組みを蓄積し、効果的援助要素のリストに反映させていく必要がある。また、各援助要素を表す用語の統一化を図り、定義を明確化することの重要性が示され、実践家の共通理解が得られる表現を採用した援助要素の作成が求められると考える。より多くの現場における実践評価として活用性の高い普遍的な効果的援助要素リストの作成を目指す一方、地域特性に合わせた独自の機能への配慮も課題であると考える。

1）本報告は文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A)「実践家参画型エンパワーメント評価を活用した有効なEBP技術支援センターモデル構築」（代表：大島巌）コミュニティソーシャルワーカー配置プログラム研究班（班員：菱沼幹男、室田信一、山口麻衣、佐藤雅子）の研究成果の一部である。

文献

Rossi,P.H.,Lipsey,M.W.and Freeman,H.E.(2004). *Evaluation:A systematic approach,*7th ed.,Sage Publications.（＝2005,大島巌ほか監訳『プログラム評価の理論と方法-システマティックな対人サービス・政策評価の実践ガイド』日本評論社.）

佐藤雅子・菱沼幹男・室田信一・ほか(2014)「コミュニティソーシャルワーカー配置事業におけるゴールと実践プロセスの検討−実践家参画型ワークショップを活用したプログラム評価モデルの構築にむけて−」『日本社会福祉学会第62回大会報告要旨集』(早稲田大学).